

絶滅危惧類 クサリゴケ科

ウニバヨウジョウゴケ

Cololejeunea spinosa (Horik.) Pande et Misra

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 植物体小型、3~5mm、常緑樹や常緑シダ類の生葉上に生育する。葉の背縁は卵形、円頭~鈍頭、各細胞の背面に1個のパピラがあり、ウニを思わせることからこの名がある。腹片は卵形、腹面はパピラを欠き平滑。スチルスは1細胞かこれを欠く。雌雄同株。花被は倒卵形で5褶、パピラで被われる。

【分布】 本州(福島県以南)、四国、九州、沖縄。日本特産。

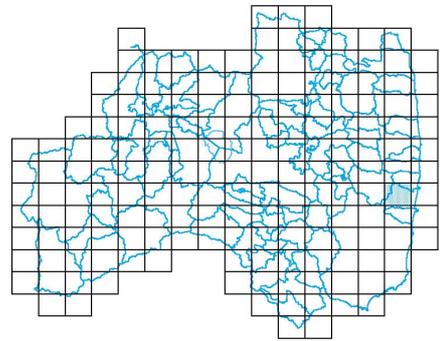
【県内の分布、生育状況】 楢葉町木戸川渓谷、いわき市背戸岨廊。福島県が北限となる。

【生育に影響を与えている要因】 森林伐採

【特記事項】 渓谷の空中湿度の高い常緑シダの葉の上に生育するので、渓谷林の保全が望ましい。

【主要文献】

福島県植物誌編さん委員会、1987。福島県植物誌。481pp。福島県植物誌編さん委員会。いわき。



絶滅危惧類 アリソニア科

写真ページ

ミヤマミズゼニゴケ

Calycularia crispula Mitt.

全国カテゴリー；絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 植物体は葉状、緑褐色、2~4cm、幅5~7mm、先端で二又に分枝する。中肋があり、縁は波打つ。腹面に無色の仮根があり、腹鱗片は線形、10~20細胞長、3~5細胞幅、側縁に2~3本の突起がある。雌雄異様。偽花被は葉状体の中央部にあり杯型。

【分布】 北海道から九州北部。日本以外では朝鮮、タイ、ヒマラヤ、メキシコ。分布は広いが産地は少ない。

【県内の分布、生育状況】 原町市新田川渓谷が現在のところ唯一の産地。古生代の地層に生育し、古生代二畳紀の地層の岩上から知られるだけである。

【生育に影響を与えている要因】 河川開発 ダム建設

【特記事項】 渓谷沿いにやや湿った岩上に生育するので、河川改修やダム建設は生育環境を危なくする。

【主要文献】

湯澤陽一、2000。原町市新田川渓谷の苔類。フロラ福島18：17-26。